

強者の戦略

東大日本史のみかた 43 [解答編]

こんにちは。日本史の岡上です。さて、今回は江戸時代の「改暦」を通じて、朝廷・幕府の関係や中国・西洋の知識の導入について問う問題でした。

江戸時代の改暦に関しては、教科書ではさらっと触れられているくらいですが、今回は設問が比較的しっかり設定されていたので、解答は作成しやすかったのではないのでしょうか。

それでは解説を始めていきましょう。

<改暦における朝廷・幕府の役割>

設問

A 江戸時代に暦を改めるに際して、幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。両者を対比させて、2行以内で述べなさい。

問われているのは、江戸時代に暦を改めるに際して、幕府と朝廷はそれぞれどのような役割を果たしたか。条件として両者を対比させることが求められています。

資料文(1)・(2)には貞享暦が作成され、施行されたプロセスが書かれていますので、そこから解答を作成していきましょう。

(1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海は元の暦をもとに、明で作られた世界地図もみて、中国と日本(京都)の経度の違いを検討し、新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し、天体観測や暦作りを行う天文方を設置して、渋川春海を初代に任じた。

資料文(1)では、幕府が、

- ・渋川春海が考案した新たな暦を採用した
- ・天文方を設置して、渋川春海を初代に任じたことが書かれています。

(2) 朝廷は幕府の申し入れをうけて、1684年に暦を改める儀式を行い、渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名した。幕府は翌1685年から貞享暦を全国で施行した。この手順は江戸時代を通じて変わらなかった。

資料文(2)では、朝廷が、

- ・暦を改める儀式を行った
- ・渋川春海の新たな暦を貞享暦と命名したことが書かれている一方で、幕府が、

強者の戦略

- ・改暦の儀式の申し入れをした
- ・貞享暦を全国で施行した

ことが書かれています。資料文の最後には「この手順は江戸時代を通じて変わらなかった」とありますので、この資料文(1)・(2)をもとに、幕府と朝廷のそれぞれ役割を対比させて解答を作成すればよいでしょう。

ちなみに「対比」とありますので、幕府の役割が新たな暦の作成と実施といった「事務的」なもの、朝廷の役割が改暦の儀式と命名といった「儀式的」なものまとめると、書きやすいのではないかと思います。

【解答例】

A 幕府は新たな暦の作成と全国での施行という事務的な役割を果たし、朝廷は改暦の儀式と暦の命名という儀式的な役割を果たした。(60字)

<改暦にみる中国・西洋の知識の導入>

設問

B 江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は、どのように推移したか。幕府の学問に対する政策とその影響に留意して、3行以内で述べなさい。

問われているのは、江戸時代に暦を改める際に依拠した知識は、どのように推移したか。条件として幕府の学問に対する政策とその影響に留意することが求められています。

まずは改暦の際に依拠した知識について言及されている資料文を確認していきましょう。

(1) 日本では古代国家が採用した唐の暦が長く用いられていた。渋川春海^{しぶかわはるみ}は元の暦をもとに、明で作られた世界地図もみて、中国と日本(京都)の経度の違いを検討し、新たな暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し、天体観測や暦作りを行う天文方を設置して、渋川春海を初代に任じた。

資料文(1)では「渋川春海が元の暦をもとに、明で作られた世界地図もみて」、つまり**中国の知識に依拠して貞享暦が作成された**ことが書かれています。

(5) 麻田剛立の弟子高橋至時^{たかはしよとき}は幕府天文方に登用され、清で編まれた西洋天文学の書物をもとに、1797年に寛政暦を作った。天文方を継いだ高橋至時の子渋川景佑^{しぶかわかげすけ}は、オランダ語の天文学書の翻訳を完成し、これを活かして1842年に天保暦を作った。

資料文(5)では、**寛政暦が清で編まれた西洋天文学の書物(=漢訳洋書)をもとに作成された**こと、さらに天保暦がオランダ語の天文学書の翻訳を活かして、つまり**中国経由ではなく直接西洋の知識に依拠して作成された**ことが分かります。

強者の戦略

ここで暦を改める際に依拠した知識の推移をまとめると、

①貞享暦→中国の知識に依拠

②寛政暦→漢訳洋書の知識に依拠

③天保期→直接西洋の知識に依拠

ということになります。

ここまでで解答の大筋はできたので、あとは条件である「幕府の学問に対する政策とその影響」を確認していきましょう。

(3) 西洋天文学の基礎を記した清の書物『天経てんけい或問わくもん』は、「禁書であったが内容は有益である」と幕府が判断して、1730年に刊行が許可され、広く読まれるようになった。

資料文(3)では、禁書であった『天経或問』について幕府が内容が有益であるとのことから1730年に刊行を許可したということが書かれています。ここで「内容が有益であることから」→「**実学の奨励**」、「1730年＝享保期」→「**漢訳洋書輸入緩和**」というワードが浮かんでくるとよいですね。

(4) 1755年から幕府が施行した宝暦暦は、公家つちみかどやすくにの土御門泰邦が幕府に働きかけて作成を主導したが、1763年の日食の予測に失敗した。大坂の麻田あさだ剛立ごうりゅうら各地の天文学者が事前に警告した通りで、幕府は天文方に人員を補充して暦の修正に当たらせ、以後天文方の学術面での強化を進めていった。

資料文(4)では、宝暦暦の修正のため、幕府が天文方に人員を補充し、以後天文方の学術面での強化を進めていったことが書かれています。なお、ここで言われている「学術面の強化」については、大坂の麻田剛立ら各地の天文学者が持つ知識、すなわち西洋の知識（洋学）であったことも文脈から読み取れます。

つまり、**幕府による享保期の漢訳洋書輸入緩和が**

きっかけとなり洋学が発達し、その影響のなかで西洋の知識に依拠して寛政期・天保期の改暦が行われたのです。

以上をまとめて、解答を作成しましょう。

【解答例】

B 貞享暦は中国の知識に依拠した。幕府が漢訳洋書輸入緩和を行い実学を奨励すると洋学が発達し、寛政暦には漢訳洋書により西洋の知識が導入され、天保暦は直接西洋の知識に依拠して作成された。

(90字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！